

## 教育学部 教育学科 英語教育・小学校コース

### 1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

教育学科英語教育・小学校コースは、建学の精神にある「利他」(自分の利益を考えずに他人の利益を優先し、他人の幸福を願うこと)を主体的に実践し、日本国憲法および教育基本法の理念である「外国語(英語)教育を通じた人格の向上と国際平和に寄与できる国民」の育成に貢献できる教育者を育てることを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の3点とします。

#### 1) 異文化対応能力

異文化にかかわる多様な事象に興味と関心を持ち、自己と他者への理解を深め、豊かな人間性と、他者と協働する態度を身につけている。

#### 2) 自己表現力

中学校・高等学校の英語教員にふさわしい英語能力を修得し、教員としての基本的専門的知識を体系的に身につけている。また、自身の考えや意見を、日本語や英語などでの的確に表現し、他者に伝える能力を身につけている。

#### 3) 思考力・判断力

英語の能力を養い、教員としての論理的思考、問題発見解決力、判断力を身につけている。

## 2. 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

### (1) 教育課程の編成、教育内容

教育学科英語教育・小学校コースの教育課程は、「基礎教育科目」、「共通教育科目」、「専門教育科目」の三つの科目群を柱として構成します。英語教育の重要性がますます高まる中、中学校・高等学校における英語教育を担当するのに十分な英語力・指導力を備えた教員を養成します。

- 1) 1年次は、専門知識を修得するとともに、幅広い教養を身につけ、教職への関心を高め、意欲の向上を図ります。同時に、教育者として必要なコミュニケーション能力や表現力を養います。「ことばへの扉」、「英語学概説」、「英語音声学」、「英文法Ⅰ・Ⅱ」、「中等英語科教育法Ⅰ」、「ベーシックコミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「英語圏文化概説」などを開講しています。
- 2) 2年次は、1年次での学びを深め、広げていくとともに、十分な英語力・指導力を備えた教員を目指し、より実践的な科目を履修します。「英語文学概説」、「英語文学Ⅰ・Ⅱ」、「中等英語科教育法Ⅱ・Ⅲ」、「英語学特論Ⅱ(英語教授法)」、「ベーシックコミュニケーションⅢ・Ⅳ」、「世界英語の文化圏Ⅰ・Ⅱ」などを開講します。
- 3) 3年次は、2年間の学びを基礎にさらなる充実を図り、教育現場での英語教諭の職務と役割を理解し、総合的な教育力・使命感・責任感を身につけます。「第二言語習得論」、「英語学特論Ⅰ(認知言語学)」、「中等英語科教育法Ⅳ」、「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「アドバンストコミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「教育実習指導(英語)」、「教育実習Ⅰ・Ⅱ(英語)」などを開講します。
- 4) 4年次は、大学生生活の集大成として、これまでに学んだ知識と教育実習で修得した教科指導力を統合し、使命感や責任感、学識と技能、実践的な指導力を有する英語教諭としての資質の構築とその確認を行います。「教職実践演習(英語)」、「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究」などを開講しています。

### (2) 教育方法

- 1) 講義および演習では、教員の講義だけでなく、学生による発表やディスカッション、グループワーク等のアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた双方向的授業を展開しています。
- 2) 少人数制を活かし、数多くの模擬授業を学生に体験させています。模擬授業では一般教室に加えICT教室も利用し、電子黒板やタブレット等のICTを活用した効果的な学修方法を教員と学生がともに模索しています。
- 3) インターネットを利用した授業支援システム(I B U . n e t)を導入し、授業時間外での課題の提示や双方向の議論を可能にしています。

- 4) 最近の教育現場の状況を把握し英語教諭の役割を理解するために、本学の卒業生や現役の教諭を招聘し、講演会やセミナーを実施しています。
- 5) 教育実習に加え、学校インターシップ、地域の学校ボランティア活動を通して、授業方法の他に諸活動や学校運営について学び、教育の実践力を高めます。

### (3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 知識の理解を確認する定期試験および授業内小テストや課題レポート、ならびに授業への参加態度や意欲、学生による授業評価などにより、各科目がシラバスに明示した目標への到達度を総合的に評価します。
- 3) 評価観点とレベルを示したルーブリックなどを用いて、自己評価と他者による評価をもとに、学修成果を客観的に把握します。
- 4) 講義（重要事項の知識の修得）・教育実習（小・中・高）・介護等体験などの課題活動を通して、教員として必要な資質能力が身についているかを振り返る自己評価シート（履修カルテ）を定期的に点検し、教育者としての適性を評価します。
- 5) 「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」において、学生自らが課題を見つけ、「卒業研究」として発表し、教員がその研究の課程と成果を評価します。

### 3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

教育学科英語教育・小学校コースでは、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 建学の精神を理解し、「利他」の精神を实践できること  
〔求める要素：関心・意欲・態度、主体性・多様性・協働性〕
- 2) 英語を通して異文化の窓口となれること  
〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能、主体性・多様性・協働性〕
- 3) 英語についての知識（英語の文法・語法および歴史や文化）と英語を実際に使う技能の両方を向上させるための努力を惜しまないこと  
〔求める要素：関心・意欲・態度〕
- 4) 入学の段階で論理的・批判的思考に耐えうる英語力を身につけていることに加えて「英語が好きである」「外国語に興味がある」ということ  
〔求める要素：思考力・判断力、関心・意欲・態度〕
- 5) 外国語として英語を学ぶ生徒のロールモデルとしての教員の役割を自覚し、英語で英語を教える力をつけるための努力を惜しまないこと  
〔求める要素：関心・意欲・態度、表現力、主体性・多様性・協働性〕
- 6) 英語を苦手とする生徒・児童の気持ちを理解し、心に寄り添えること  
〔求める要素：関心・意欲・態度、表現力、主体性・多様性・協働性〕
- 7) 入学後、国内外の英語研修や自主勉強会などに積極的に参加し、自らの英語力を高めようという意欲があること  
〔求める要素：関心・意欲・態度、主体性・多様性・協働性〕